



ふたりの出会い

みんなのしあわせエピソード



パートナーとの素敵な出会いと子育ての中で得た喜びや家族のすばらしさをテーマにしたエピソードを市民の皆様から募集しました。その中から審査会で選ばれた17作品を紹介します。この冊子が幸せを分かち合い、広げるきっかけとなりますように。

全応募作品は
こちらへ



茨木市

最優秀賞

ありがとうございます導かれて

妻 30歳(筆者) 夫 30歳 子 1歳

夫と出会ったのは高3の春。クラスの席順が前後で私が前、夫が後ろ。プリントを後ろに渡す時に夫は必ずと言っていいほど私に「ありがとうございます」と言ってくれました。

今まで別の人にプリントを渡す時に「ありがとうございます」なんて言われたことなかったから何か気になりだして。時間がたつにつれ私が好きになって付き合い始めました。「ありがとうございます」の言葉に魅かれて。

結婚するまでに別れたり付き合ったりしたけど結婚するまでの10年間、夫は私のことをずっと好きでいてくれたこと。プロポーズしてくれたこと。決心できました。この人と家族になろうと。今では子どもも生まれ幸せで



す。でもたまにけんかもします。それでも幸せです。「ありがとうございます」の言葉があるから。これからも子どもと3人で「ありがとうございます」の気持ちを大切にしていきたいと思います。

審査員から
ここがいわ!

「ありがとうございます」は、感謝の心を伝え、互いに幸せな気持ちをもたらす大切な言葉。プリントを手渡す時、思春期の男子は意識してためらいがちですが、「ありがとうございます」が言えたのは、彼の家族が普段から感謝の言葉をかわしていたからでしょう。感謝の言葉が夫婦を結び付け、世代をこえて受け継がれていく。素敵なお家庭ですね。

安田真奈さん(映画監督・脚本家)



技あり!プロポーズできる券

妻 30歳(筆者) 夫 30歳 子 1歳

夫とは大学のテニスサークルで出会い、3回生のときから付き合うようになりました。就職してからはお互い忙しく、平日はメールの1通も送らない、週末に予定が合えば遊ぶ…という生活を繰り返していました。それが程よい距離感で楽でした。



しかし私が25歳になったとき、「このままダラダラ付き合っていて、もし別れたら私の良い時期みんな持ってかれる!」と危機感を抱き、夫の誕生日に仕掛けることにしました。その年の誕生日プレゼントはお財布にしました。中のカード入れに3枚カードを入れました。①マッサージ券②手料理食べられる券③プロポーズできる券(有効期限1年間)。夫はそのとき少し酔っぱらっていましたが、③のカードを見てすぐに酔いがさめたそうです。

それから約半年後、付き合い始めた記念日にプロポーズしてくれました。してやったり(^^)♪。今は子どもも産まれ3人でわいわい楽しく過ごしています。

審査員から
ここがいいね!

「プロポーズできる券(有効期限1年間)」は、斬新なアイデアでユーモアたっぷり。受け取った男性の反応も面白いです。交際や結婚に踏み切れないカップルにとって、女性から積極的な行動を起こす一つの手本になるのではないでしょうか。
(大学生女性)



愛を紡いだ2枚のラブレター

妻 31歳(筆者) 夫 31歳 子 2歳、0歳

小学校入学式。記憶はほとんどありませんが、クラスメートに小柄な男の子がいました。少しずつ仲良くなり高学年になると一緒に遊ぶようになり、ラブレターをもらいました。内容はあまり覚えていませんが、私は「友達として好き」というよくある返事をしました。



そして、二十歳になり成人式で再会。当時の雰囲気は残っていましたが、「大人になったなあ」と思っていました。その5年後に同窓会で再会。そこで仲良くなり27歳の時、2度目の告白。あの小柄な男の子が結婚相手になりました。プロポーズはもちろんラブレター。

結婚してまだ5年ですが、出会いからは25年。運命の赤い糸がこんなにも昔からこんなに近くでつながっていたとは思いませんでした。けんかした時は2度目のラブレターを読むとクスッと笑えて仲直りできます。もうすぐ2歳になる息子と息子に負けないほど素直な夫は私の大切な宝物です。神様ありがとう。

審査員から
ここがいいわ!

小学生時代の告白とプロポーズ、どちらもラブレターで思いを届けた夫が素敵。淡い恋心が大人になって生まれ成就し、運命的なつながりを感じます。メール、SNS主流の今、若い世代にラブレターは新鮮。思いを込め手書きでつづられた手紙は、メールよりも相手の心に深く届くのでしょう。(大学生女性)

審査員賞

一途な思いが行動に

妻45歳(筆者) 夫45歳 子17歳、14歳



20年以上前、バイト帰りの電車内で「よう子ちゃん〜!」と声をかけてきたのはスキーツアーで一緒だった男性。それから数週間後、私が降りる駅でたまたま乗り合わせて声をかけてきた男性。どちらも今の夫です。偶然を装い私に声をかけるために、何時間も前から待っていてくれたということを知って結婚してから初めて知りました。

携帯もLINEもない時代。大体の時間を考えて寒い日、ずっと待っていてくれた彼。寒い日は自分のマフラーをはずして私にかけてくれました。そんなやさしさがとてもうれしかった。その秘密を知ってからより一層愛情が芽生えました。

結婚後、けんかをして冷静に考え、出会ったころのことを思い出すようにしています。するとだんだん怒りも収まっていくから不思議です。彼の私への純粋で一途な思いが現在の結婚生活を円満にしてくれている秘訣になっているのかもしれませんが。

特別審査員 奥野史子さん評 スポーツコメンテーター・「いい夫婦の日 パートナー・オブ・ザ・イヤー」受賞

通信手段が限られていた当時、好きな人のために何時間も待つ男性の行動力からひたむきな愛情が伝わります。私自身は夫が海外留学していた5年間、連絡は主にFAX。改めて読み返そうと思ったら、感熱紙だったためすべて消えてしまっていました。あの時代ならではの思い出です。

佳作

介護から愛を育み60年

妻85歳(筆者) 夫89歳



「困ってる事あんねん」。少し前から付き合っていた夫が言いました。「何?」「風呂やねん」。生まれた時に母を亡くし、終戦時に父も亡くしていた夫は、育ててくれた祖母と二人暮らし。足腰の弱ってきた祖母を家で水ささせていたという。ところが寒くなってきてそれもできず、思案していたとのこと。

それから夫が祖母をおぶって銭湯まで、引き継いだ私が入浴介助、夫がおぶって帰るを何度も繰り返しました。そのうち、入浴後、家まで帰るのがおっくうになり、「ま、いいか」。心配した母の勧めで、翌年2月に式を挙げ、4月に寝付いていた祖母を見送りました。

あれから60年、仕事、家、私の両親の事など、いろいろありましたが、夫と一緒にの人生を送れた事を何よりと思っています。その夫が7年前に神経難病を発症、入院退院を繰り返しています。今も点滴漬けの毎日ですが、「パパさん、がんばってね」。

審査員から
ここがいいね!

夫の祖母の介護をきっかけに結婚され、以来60年、共に支え合いながら人生を歩んでおられます。相手の家族を思いやる優しさから愛を育み、積み重ねてきた年輪に尊敬の念を抱きます。
(40代男性)

心に響くあれこれエピソード

嫌いが好きに 歌が結んだ愛 妻 49歳(筆者) 夫 50歳

出会いは小さな田舎町。保育園・小学校・中学校は町内に1か所しかありません。1歳違いですが、物心ついたときには、お互いのことを知っていたと思います。高校も家から一番近くの学校に進学し、なんと、卒業後も同じ会社に就職していました。ただ、お互いに恋愛感情なんて全くありませんし、それどころか私はなぜか彼のことが嫌いでした。

そんな二人が急接近したのは、私が仕事で失敗をしたときのこと。急ぎの荷物を発送するのを忘れて、パニックになっていた私に「運送会社に持ち込めばまだ間に合う！」と商品を準備して大雨の中、車で一緒に行ってくれたのが彼でした。助手席に座るのは苦痛でしたが、仕方ありません。そんな時、ラジオから流れてきた曲に、「あっ！俺の好きな歌」「あっ！私の好きな歌」と二人同時に声をあげていました。いつしか嫌いは好きに変わり、二人は人生を共に歩み始めることになりました。



審査員から
ここがいいわ！

相手を意識しない限り「嫌い」という感情は表れません。「好き」に転じるにはほんの少しのきっかけだけですね。(50代男性)

猛アタック 大成功 夫 30歳(筆者) 妻 38歳 子 3歳、0歳

バイト先の店長の友達に人生初の一目ぼれ。自分探しの海外旅行前にチャンスは突然やってきました。バイト先の送別会に彼女がまさかの飛び入り参加。旅立つ前に一緒にお酒を飲めるとは。高鳴る鼓動と裏腹に彼女からこんな質問が。「好きな子いないの?」「あなたです」と言いたい気持ちをぐっとこらえ「います」。「えー！告白したら？海外いっちゃうんでしょ？言ったらなにか変わるかもよ。私なら告白するな。言っちゃえいっちゃえー」。まさかの本人からの後押し。

よーし。当たって砕ける！と、メール攻撃。「好きです。海外から帰ってくるまで待っていてください」。今までの僕はこんなことできなかったけれど、彼女だからできました。運命の出会いってあるんだな。あれから9年、今、僕のそばには彼女と息子二人がいます。



審査員から
ここがいいわ！

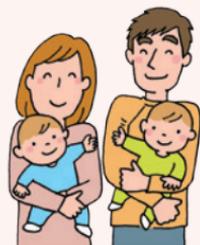
告白していなければ、結ばれていなかったと思うと、思い立ったらすぐ行動する勇気が大切だと強く感じます。恋愛は積極さが必要ですね。(大学生女性)

素敵な人と巡り合えた喜び

妻 35歳(筆者) 夫 35歳 子 5歳(双子)、3歳

あなたと出会って、私は自分の居場所を見つけました。あなたは、毎日たくさんの笑顔をくれました。仕事でうまくいかない時、あなたの前だから素直に泣きました。おなかにつたつの命があることを知った時、「ラッキーやん」と一言背中を押してくれました。

あなたと一緒にいる自分が、一番好きだと思えるようになりました。世界で一番の理解者が一番近くにいる安らぎを知りました。結婚しようと言ってくれたその日から、私はたくさんの幸せに包まれています。これからも支えるから、ずっと守っててください。



審査員から
ここがいいね!

素直な気持ちが綴られ、幸福感が伝わります。こんな風に思えたら、素敵な人と巡りあえた喜びをいつまでも忘れないでしょう。

(40代女性)

審査員の 声

応募作品は、有識者、大学生、市職員で構成する審査会で検討しました。結婚や子育てにまつわる審査員からの意見、感想をご紹介します。

大学生女性：いつかは結婚、子育てをしたいけれど、まずは働いてキャリアを磨きたい。社会経験が子育てにも役立つと思うから。

大学生男性：女性が社会で活躍するには、男性が積極的に家庭進出し家事、育児、介護を分担できるようにならないと。

20代未婚女性：仕事やいきがいをもちながら、女性が自分自身の人生をプランニングできる今、結婚はたくさんある選択肢のひとつであり、すべてではないように思います。

30代未婚男性：私たちの世代は結婚を冷静な目で見てしまいがちです。ハードルを上げすぎて、きっかけを逃してしまっているのかもしれない。

40代既婚女性：子育ては決して楽ではないけれど、それ以上の喜びとやりがいがあることを知ってほしい。子どもの言葉や行動に笑えたり、励まされたり毎日楽しいですよ。

40代既婚女性：育児休業を取得し、3人の子どもを育てました。子どもの看病のため休みたいと、当時の上司に相談した時、「子どもは日本の宝だから気にせず休みなさい」と励まされました。茨木市役所では、女性の育児休業取得率は100%、子どもの看護休暇も既に定着しつつあります。

審査員長 小崎 恭弘さん NPO 法人ファザーリング・ジャパン顧問

約9割の未婚男女がいつかは結婚したいと望む一方、生涯未婚率は年々上昇。「いい人にめぐりあえない」「結婚すると自由がなくなる」などの理由から、相手を理想化しすぎてしまうようです。

この作品集には、出会いや子育ての姿がありのままに描かれ、多面的な魅力が伝わるエピソードが集められています。いいこともあれば、つらいこともある、その中で成長し喜び合えるのが家族の醍醐味。一人でも多くの方に大切な人とともに生きていく一歩を踏み出してほしいです。